

令和5年度 第2回苫小牧市防犯のまちづくり懇話会

◎小学校の開錠について

令和5年度 第1回苫小牧市防犯のまちづくり懇話会における要旨

【委員意見】

学校内への不審者立ち入り防止策として、インターホン確認がされていますが、学校によっては朝の玄関が開く時間が遅く、仕事をしている親の子供は長時間玄関前で待つことになっている。その際に先生や保護者が一緒にいないので、その間に何かあったらと思うと心配です。

【市回答】

各学校では、児童生徒が登校してから下校するまで、玄関の施錠を行ったり防犯カメラで確認を行ったり刺股を常備したりするなど、不審者の侵入に対する対応を図っております。

現状としては、子どもたちの安全を確保するために、通学時間帯の範囲を広くとらないようにしている学校が多くございますが、児童生徒が決められた時間に登校することや、児童生徒の見守り体制について、引き続き学校、保護者、地域で連携して取り組めるように周知を図ってまいります。

【委員】

回答に具体性がない。小学校の見守りを行っているが、早い時間に一人で登校する子、親の勤務時間の都合なのか車で置いて行かれる子など事情は様々だと思うが、実態として開錠前の校門で待つ子供たちは一定数いる。学校、保護者、地域がどのように連携して取り組むのか具体的な回答を求めたい。

【委員】

開錠前の校門で待つ子供の個別事情や人数など、各学校の実態をどの程度把握しているのか、そこを明らかにした上での回答でなければ議論のしようがない。今回は無理でも、次回会議で実態を明らかにしたうえで、どう対応するのか示すべきだ。

【市回答】

国が進める「学校における働き方改革」の一環として、適切な開錠時間の設定がなされているものと思うが、各学校の実態について次回会合でお示しできるよう教育委員会と協議する。

令和5年度 第2回苫小牧市防犯のまちづくり懇話会における回答

開錠の時間と待機している児童生徒の実態について、でございますが、各学校職員の勤務時間に合わせた時間設定を行っておりますが、開錠時間を繰り下げしてほしい等の保護者から要望はないと伺っています。

開錠前の児童生徒の安全確保については、これまでは教員の善意による対応が続いておりました。

しかし、昨年文部科学省が教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策として、提言を行っていますが、その中で、基本的には学校以外が担うべき業務として、登下校に関する対応が挙げられております。そのことから、開錠前の校門での児童生徒への対応について、すべてを学校に任せることは難しい現状です。市教委としては、早い時間に登校する児童生徒に合わせた体制をとることよりも、児童生徒が決められた時間に登校いただくことが重要と認識しています。

学校には、決められた時間に登校いただくよう理解を得ることが大切でありますし、それでも難しい家庭については、各学校の実態に応じて、保護者や地域の手も借りながら対応していく必要があると考えております。